

石川町

議会だより



No. 192

平成29年 8月1日

発行／石川町議会
編集／石川町議会広報
編集特別委員会

▲新設された屋外遊び場(旧石川小学校)

2017

6月定例会

P2 審議結果

P4 紙上中継(常任委員会審査)

P6 一般質問

P12 あれからどうなった?
(一般質問のその後は)

P13 「町民の意見を聞く会」から
5項目の要望書を町長へ提出!

平成29年度

国民健康保険税決まる 国保税率が引き下げられました

6月
定例会

平成29年度の国保税は、被保険者の負担軽減のため、前年度の決算剰余金を充当され、医療分・後期高齢者分・介護分の所得割、均等割、平等割が、それぞれ据え置き、又は引き下げられました。

また、地方税法の改正に伴い、低所得者の負担を軽減するために算出方法が見直され、5割軽減及び2割軽減の対象が拡充されました。

その結果、1世帯当たりの保険税が1954円減額され、率にして1.20%減の16万333円となりました。

◆医療分基礎課税額

医療機関にかかったときの医療費等の給付費用に充てるための財源として納めるもの。

区分	現行	改正案	比較	
所得割	7.10%	7.08%	▲0.02%	
均等割	20,150円	20,070円	▲80円	
平等割	一般世帯	19,250円	19,170円	▲80円
	特定世帯	9,625円	9,585円	▲40円
	特定継続世帯	14,437円	14,377円	▲60円

◆後期高齢者支援金課税額

75歳以上の医療保険である後期高齢者医療制度を支援するため、その医療費等の財源の一部として納めるもの。

区分	現行	改正案	比較	
所得割	2.37%	2.37%	0%	
均等割	6,960円	6,810円	▲150円	
平等割	一般世帯	6,030円	6,030円	0円
	特定世帯	3,015円	3,015円	0円
	特定継続世帯	4,522円	4,522円	0円

◆介護納付金課税額

介護保険制度の財源として、40歳以上65歳未満の加入者（介護保険第2号被保険者）が納めるもの。

区分	現行	改正案	比較
所得割	2.72%	2.72%	0%
均等割	10,670円	10,500円	▲170円
平等割	6,150円	6,030円	▲120円

※所得割：加入者の所得に応じて課税します。

※均等割：加入者1人につき、定額で課税します。

※平等割：加入者数に係わりなく、1世帯につき、定額で課税します。

6月定例会は6月8日から14日までの7日間の会期で開かれました。専決処分承認、条例の改正、補正予算などの議案が提案され原案のとおり可決したほか、人事案件1件、請願6件、議員発議6件を審議しました。また、一般質問には6人の議員が町政を問い、傍聴には33人が訪れました。

議案・請願・発議 審議結果

議案番号	議案・請願	審議結果	
議案 第28号	専決処分の承認を求めることについて (平成28年度石川町一般会計補正予算－第7号)	承認	全員
議案 第29号	専決処分の承認を求めることについて (平成28年度石川町国民健康保険特別会計補正予算－第4号)	承認	全員
議案 第30号	石川町税条例の一部を改正する条例	原案可決	全員
議案 第31号	石川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	原案可決	全員
議案 第32号	平29年度石川町一般会計補正予算 (第1号)	原案可決	全員
議案 第33号	平成29年度石川町国民健康保険特別会計補正予算 (第1号)	原案可決	全員
議案 第34号	平成29年度石川町中谷財産区特別会計補正予算 (第1号)	原案可決	全員
議案 第35号	石川町農業委員会委員の任命について	同意	全員
請願 第4号	「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	採択	全員
請願 第5号	「政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める」意見書の提出を求める請願	採択	全員
請願 第6号	「ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める」意見書の提出を求める請願	採択	全員
請願 第7号	「地方バス補助の上限引き下げに反対する」意見書の提出を求める請願	採択	全員
請願 第8号	「ライドシェアの導入に反対し、安心・安全のタクシーを求める」意見書の提出を求める請願	採択	全員
請願 第9号	「東京電力福島第二原子力発電所の即時廃炉を求める」意見書の提出を求める請願	採択	全員

議案番号	発議	審議結果	
発議 第3号	「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	原案可決	全員
発議 第4号	政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書	原案可決	全員
発議 第5号	ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書	原案可決	全員
発議 第6号	地方バス補助の上限引き下げに反対する意見書	原案可決	全員
発議 第7号	ライドシェアの導入に反対し、安心・安全のタクシーを求める意見書	原案可決	全員
発議 第8号	東京電力福島第二原子力発電所の即時廃炉を求める意見書	原案可決	全員



- 遠藤武重 (王子平)
- 横川昌英 (新屋敷)
- 角田義光 (沢井)
- 緑川喜友 (板橋)
- 緑川一男 (山形)
- 仲田昌勝 (中田)
- 芳賀正幸 (北山形)
- 佐藤晴夫 (曲木)
- 金沢和則 (鹿ノ坂)

石川町農業委員会委員の任命について、全員異議なく同意しました。

石川町農業委員会
委員の任命に同意

常任委員会審査

総務産業建設常任委員会

町営住宅建設に向けて

Q 建設予定の町営住宅はいつから入居できるのか。

A 平成30年4月1日からの入居開始を目指しています。

Q 何世帯が入居できるのか。

A 4世帯が入居できる木造2階建てメゾネットを2棟建設し、8世帯が入居できます。

Q 部屋の間取りはどうなっているのか。

A このメゾネットは、1つの住戸が1階と2階を利用できます。夫婦と子供2人の子育て世帯を想定していますので、間取りは3LDK、延床面積は82.52㎡と広い住宅です。

1階は、約14帖の広いリビング・ダイニングキッチンのほか、ユニットバスは、一坪サイズで比較的ゆったり入れる浴槽です。また、暖房便座の洋式トイレや洗面化粧台など、清潔感のある作りとなっています。

2階は、用途に応じ使用できるように、約6帖の洋室が3部屋、1帖サイズのウォークインクローゼットになっています。

Q 今までの町営住宅との違いはありますか。

A テレビの受信設備、給湯設備、浴槽設備などが完備されていますので、入居時の経費が大幅に軽減されます。

また、台所の熱源はLPガス、IHヒーターのいずれかを選択できます。防犯対策として、玄関にカラー液晶モニター付きのインターホンを設置します。

Q 駐車場はありますか。

A 敷地内には、駐輪場のほか、1世帯につき2台分の駐車場を確保します。



▲若者世帯の定住を促進（旧合同庁舎跡地）



紙 上 中 継

文教厚生常任委員会



▲地域で子どもを育てる

Q 野小っ子クラブとは。

A 教育委員会が実施している放課後子ども教室とは別の組織になります。

子ども教室がお休みの日も、「子どもたちが安全に過ごせる場所がほしい」という保護者の声を受け、地域の方々が自主的に設立し、運営を行っている子供見守りの組織です。

Q どんなことをしているのか。

A 放課後に、野木沢小に就学している児童が体育館に集まり、学校支援コーデイネーターと地域ボランティアの方々

が、宿題や自主学習など、計画的な生活ができるように場所と時間を提供してくれています。

現在、約50名の児童が登録しており、放課後それぞれ自主的に読書や学習活動などを行い、安全に楽しいひと時を過ごしています。





根本 重泰 議員

Q 認定こども園建設・幼児教育の無償化は

A 子育ての問題は最優先として考えます

質問 保育の現状は。

答弁 本町の就学前の3、4、5歳児の大半は保育所や幼稚園を利用していています。また、ゼロ歳児は1割程度、1、2歳児について約半数が保育施設を利用しています。

質問 保護者のニーズは。

答弁 今後は、出産後における女性就労の増加等により、ゼロ・1・2歳児の利用が増えるものと認識しています。

質問 ゼロ歳児保育については。

答弁 ゼロ歳児だけではなく全体的に子どもの教育には徹底して取り組む考えです。

質問 認定こども園の取り組みは。

答弁 認定こども園を含め、子供たちが集まり、遊びも教育も一貫した基本構想をつくり、3年後には、その姿がある程度想像できるようになっていると思っています。

質問 幼児保育の無償化は。

答弁 出生率の低い中で、子育ての問題については最優先で考え、取り組んでいかなければならない大きな課題だと思っています。

提言 ①第一、第二保育所を一緒にした認定こども園の建設。
②幼児教育の無償化を実現。
③双里地区を保育、小中学校、社会教育の文教地区とした総合整備計画の策定。



▲「一番はだあれ」

Q 直売施設から道の駅へ

A 国道周辺を視野に検討



瀬谷 寿一議員

質問 過疎地域自立促進計画と第6次総合計画の整合を。

答弁 過疎地域自立促進計画と、第6次総合計画の期間には、2年間のずれが生じることから、5総との整合を図り、6総で随時見直しを行います。

質問 過疎対策にあたって先送り事業の洗い直しを。

答弁 一定程度の洗い直しの必要があります。

質問 農村部の道路整備が遅れているのも過疎要因の一つと考えるが。

答弁 期待に応えられるようにします。

質問 GAP（農業生産工程管理）導入に対し町の支援は。

答弁 県の補助事業を活用するとともに相談窓口を設置し、GAP取得に取り組む農業者等を支援します。

要望 GAPでは良質でない肥活用が課題となる。「たい肥センター」建設を急いでもらいたい。

質問 道の駅建設でネットワークになっているところがあるのか。

答弁 バイパスの完成を待つて道の駅を立案するのではなく、方向転換をして行きたい。また、農業従事者にとつて期待の持てる整備を図っていきます。

意見 道の駅構想を町

外に発信することで、バイパス工事を促進させることができるのではないかと。

質問 「道の駅国見」では、オープン1カ月で好調な理由は、立地の良さと施設の多様性を上げている。石川町でそういう場所があるか。

答弁 国道118号を起点として、その地域に早急に立案をして実施すべきだと思っております。

質問 道の駅の方針が固まれば、できるだけ早く準備室を設置して、生産組織、運営組織を立ち上げることが必要である。

答弁 準備室



▲5月にオープンした道の駅「国見」

を作る段階ではないが、担当部署と担当者を決めて所在をはっきりさせなければならぬと思っております。

要望 道の駅は、農業者、モノづくり関係者の期待が大きい。この計画のスピードアップを強く要望します。



中村孝太郎 議員

Q 就農人口減少対策と耕作放棄地対策は

A 認定農業者育成や経営規模拡大、生産向上支援を

質問 石川町の農家人口は、昭和41年には1万4200人、平成27年の就農人口は1323人です。耕地総面積は、昭和41年には2480㍎、平成27年には1235㍎、耕作放棄地は631㍎になっています。国営母畑パイロット事業による石川町の農地総面積は515・65㍎、耕作放棄地は56・99㍎と開発農地の11%になっています。就農人口減少や耕作放棄地の増加は石川町の農業にとって大きな課題です。就農人口減少対策と耕作放棄地対策について伺います。

答弁 就農人口減少対策として、中山間地域の条件不利地でも農業所得が確保できるように国・県の補助制度などを取り組みながら、認定農業者の育成にも努めています。

また、耕作放棄地対策としては、農地流動化補助金などの利用促進、担い手への集積、集約化、新規参入の促進に取り組んでいます。

質問 機械化したから一反歩の収穫が増えるわけではない。農業は補助がないとできない面があります。それに自然を守る大事な役割も持っています。石川町の農業を本気に考えるのなら、支援が必要なのですか。

答弁 農業は損得ばかりでなく自然環境の問題など非常に大切な種であることは間違いありません。支援する問題などについても考えてまいります。

Q 町民が憩えるきれいな川を取り戻すには生活雑排水の適切な処理が重要

質問 石川町は、今出・北須川が流れ、季節の折々に様々な草花や野鳥を見ることができ、カワセミが飛び交い、ゴイサギなどの珍しい鳥に出会うこともあります。

自然がいつぱいなのに、川の中には鯉とソウギョ以外の川魚は見当りません。川虫などの水生生物も同じです。町民が憩える今出・北須川のきれいな水と

景観をめざした町の政策を伺います。

答弁 きれいな川を取り戻すためには、生活排水の適切な処理が最も重要と考えることから、今年の4月から町独自で合併浄化槽の補助をかさ上げしたところです。今後も生活排水の町民啓発と合併浄化槽の普及率向上に努めます。

質問 今出・北須川の生物学的な水質検査のやる気を伺います。

答弁 これからの課題としては非常に大切なことなので考慮して進めます。



▲若き就農者

就農人口減少や耕作放棄地の増加は石川町の農業にとって大きな課題です。就農人口減少対策と耕作放棄地対策について伺います。

Q 過疎対策に人材育成と教育の振興を柱に

A 人材育成はすべての基本である



渡辺 実 議員

質問 4月1日、石川町が過疎地域指定になったが、その原因を伺う。

答弁 平成2年から27年の人口が26%減少したことが原因です。

質問 10年間で5000人が減少し、出生率も減少に転じている。この原因を分析しないと対策も打てない。その考えは。

答弁 9月までに自立促進計画を策定します。

質問 計画の柱に、町で頑張る人材育成や教育の充実が必要と思うが。

答弁 人材育成はすべての基本と考えています。

質問 その一つとして、給付型奨学金の創設は。

答弁 ふるさと教育を行っている。

質問 計画の重点施策は。

答弁 認定保育園の実施、文教福祉複合施設や町営住宅の整備、中心市街地の活性化などです。

質問 計画の柱に、交流人口拡充の考えは。

答弁 交流人口増は現実的施策と考えています。

Q 千五沢ダム浸水の想定マップの

防災訓練は

A 10月の県中総合

防災訓練で検討

質問 千五沢ダム浸水想定マップによる防災訓練の実施は。

答弁 10月の県中地方総合防災訓練で住民と一体となった訓練を行います。

質問 避難路の指定と整備

の考えは。

答弁 避難ルートの明確化と整備を進めます。

質問 避難路は整備されているのか。

答弁 避難路を確認し、整備を行います。

Q 国民健康保険の

県一元化は

A 来年4月から実施

質問 国民健康保険、県一元化の概要は。

答弁 県が財政主体となり、町は窓口業務、資格審査、保険給付、保険料率の決定、賦課徴収、保健事業などを行います。

県は標準保険料率を町に示し、町は保険料を賦課徴収し、県に納付します。医療給付に必要な費用は県から交付されます。

町民へのチラシ配布と広報いしかわで周知していきます。



▲三芦橋近くのダム放水の看板



小木 芳郎 議員

Q 石川町のいじめの認知件数は

A 小学校1件・中学校7件です

質問 昨年度のいじめに関する相談、認知件数について伺います。

答弁 平成28年度における認知件数は、小学校1件、中学校7件の合計8件。内容は悪口、いたずら等で、重大事態となるいじめの発生はありません。認知した、中学校の7件については解決済みであり、小学校の1件についても改善傾向にあります。

質問 いじめを訴えやすい体制づくりは整っているのか。

答弁 相談は、学級担任、養護教諭、スクー

ルカウンセラーを中心に全教職員が窓口となり、ささいな問題でも相談できる体制を整えています。

質問 学校以外で相談するところは。

答弁 町の教育委員会、法務省管轄の子どもの人権110番、県警察本部直轄のいじめ110番、県教育委員会管轄のダイヤルSOSで相談を受け付けています。

質問 いじめ問題の町の方針は。

答弁 平成26年3月策定の『石川町いじめ防

止基本方針』を基に、子供の目線に立ち、重大事態にならないように対応しています。又いじめを生まない教育を進めるため、『学び合い』の授業を取り入れ、今後も研究実践を進めます。

要望 石川町に学ぶ児童生徒、さらには高校生がいじめをなくすように今後もお願いしたい。

Q ため池整備計画はあるのか

A 国や県と協議を図っていく



▲荒廃が進むため池

質問 渇水問題について、各地区にため池の整備や水路整備の計画はあるのかを伺います。

答弁 各地区の実態を把握し、農業用水の確保について国や県と協

議を図りたいと考えています。

Q 山間部での防火対策は

A 水利を効果的に活用できるよう取り組む

質問 消火活動が困難な地区での火災は深刻な問題であるが町の対策は。

答弁 既存の消火栓、防火水槽の整備点検を行うとともに、消防団を中心に地域の水利を効果的に活用できるように取り組んでいきたいと考えています。

Q 石川町の生涯未婚率は

A 男性31.72% (全国比8.35p高い)、女性9.79% (全国比4.27p低い)



瀬谷 京子 議員

【質問】 未婚の増加は深刻な社会問題です。現状と対策を伺う。

【答弁】 国立人口問題研究所が、平成27年末国勢調査をもとに公表している男女50歳までの未婚率の調査結果によると、全国平均では男性23.37%、女性14.06%です。

【質問】 本町の調査は。
【答弁】 平成27年に15歳から40歳未満の町民1500人を対象とした調査では、「いずれ結



▲賑わう「石川コン」

婚するつもり」67.6%、「結婚するつもりがない」6.6%です。
また、結婚しない理由は、「結婚したい相手がいない」「出会う機会がない」「家族を養うほどの収入がない」などの回答が多くありました。

【質問】 石川地方婚活事業「石川コン」の成果は。

【答弁】 平成26年度より、年2回開催しています。これまで男性520名、女性317名が参加し、123組のカップルが誕生、10組が結婚に至っており、うち5組が町内に新居を構えました。

【質問】 結婚は個人の問題であるが本人の努力では克服できない課題もある、社会環境をどう整えるべきと考えるか。

【答弁】 この現実を町全体で共有し、社会の問題と受け止め、改善する有効な方策を模索する必要があります。

Q 東電福島原発事故に伴う損害賠償支払い

A 請求額の12・79%分の支払いを受けています

【質問】 請求内容は
【答弁】 本年3月31日現在で、一般会計・簡易水道・水道事業会計を合わせ9245万9736円請求に対し、12・79%の1182万4000円の支払いを受けています。今後も粘り強い交渉に努力します。

Q 文教福祉複合施設の事業費は

A 3月末時点の概算で9億5000万円です

【意見】 3月議会の時は7億8000万円位であったが、どんどん膨らんでいく。将来、老人福祉センターや保健センターも移し、文教福祉エリアとするのが良いと思う。

あれからどうなった？

一般質問のその後は

平成28年6月
定例会より

文教福祉複合施設（旧石川小学校）

実施設計決まる！

●旧石川小学校を改修し、文教福祉複合施設に整備する。子育て支援や生涯学習の機能強化を図りながら、ひとつに集約し相乗効果を高めるとの答弁だったが、その後の進捗状況は。

●平成28年7月から、ワークショップ

●旧石川小学校を改修し、文教福祉複合施設に整備する。子育て支援や生涯学習の機能強化を図りながら、ひとつに集約し相乗効果を高めるとの答弁だったが、その後の進捗状況は。

●平成28年7月から、ワークショップ

を開催し、話し合いの中で出された意見をもとに、施設の設計ができました。

また、4月に「ブレイクアウト」野外遊び場の遊具が設置されました。

今後は、施設の運営を考えるワークショップを行います。

学び舎から結び舎へ！

「集い・遊び・学ぶ」新たな拠点施設として、来年8月オープンを目指します。

*ワークショップとは…参加者の意見をくみ取りながら、進めていくスタイルの話し合いです。

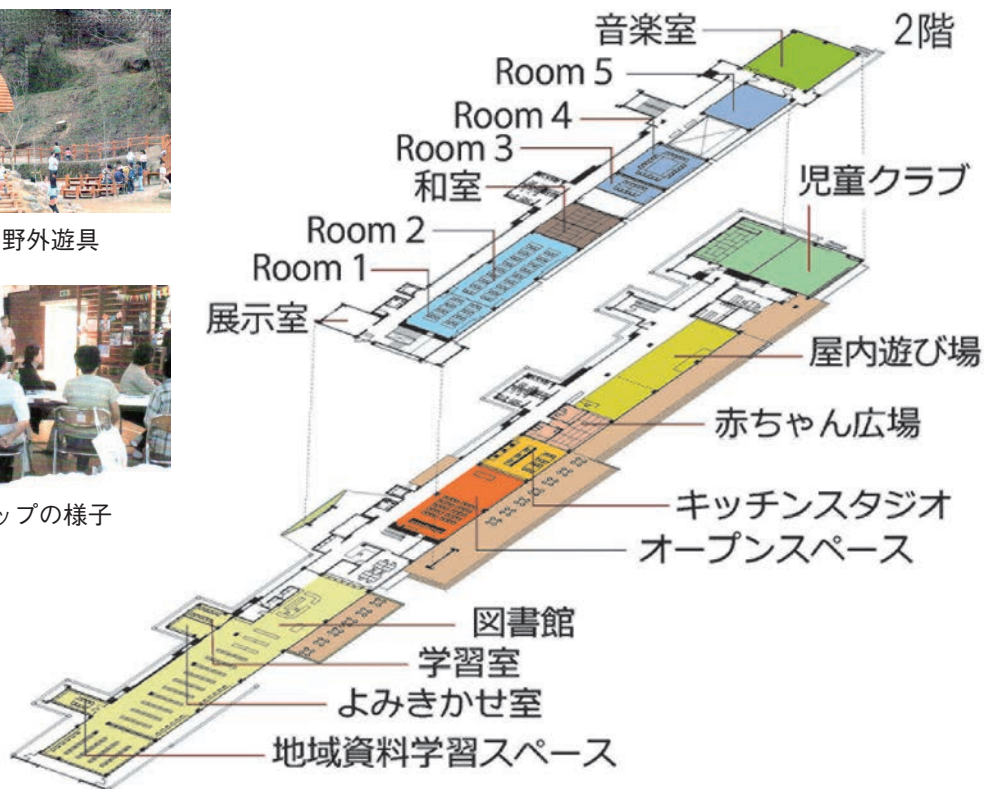
校庭側から見た全景



設置された野外遊具



ワークショップの様子



5項目の要望書を町長へ提出!

要望事項

- 1 暴風、豪雨、洪水、地震その他の異常な自然現象により生ずる被害に備え、防災対策の推進に取り組むこと。
- 2 人口流出、少子化の歯止め、抑制策として、若者、子育て世帯向けの多様な定住施策を充実すること。
- 3 企業の誘致、既存企業の育成・支援等により、新たな雇用の創出と雇用の安定確保に全力で取り組むこと。
- 4 町政運営の根幹をなす計画、政策・施策・事務事業について、町民にわかりやすい丁寧な説明、対話を行うこと。
- 5 計画的な職員採用等による適正な定員管理のもと、地域おこし協力隊等の外部人材の活用も図りながら、業務量に応じた適材適所の人員配置に努めるとともに、地域を活性化するための人的支援を行うこと。

5月1日、今後の町政に反映されるよう石川町議会として町長へ要望書を提出しましたので報告します。
また、6月6日に回答がありましたので紙面に掲載致します。

要望書の回答（文章抜粋）

- ①25年「石川町ハザードマップ」「地域防災計画」を全世帯に配布、啓もう活動に努めた。ハザードマップを基本に点検を行い、早急に避難路の明確化と整備を進める。避難行動要支援者は個別プランの策定作業を進める。
- ②住宅用地の提供、民間事業者宅地造成時に道路整備支援をしている。また、若者や子育て世帯には、住宅取得の補助、町営住宅として旧雇用促進住宅の改修整備、空き家の利活用の推進を図る。
- ③企業誘致は県の機関と連携、情報発信収集、企業訪問をしている。また、町内企業には、町単独の「がんばる企業支援事業」「制度資金保証料補助」などの支援、国県の制度紹介をしている。
- ④計画・政策など町民へのアンケート、町民代表者委員会で案の取りまとめ、その後説明会やパブリックコメントを行い、町民意見を反

映させた計画にしています。また、計画概要版の全戸配布、広報誌、ホームページへの掲載を行っている。今後は、町政懇談会を定期的で開催したい。

- ⑤「石川町定員管理計画」により採用人員を定めている。ヒアリングにより、業務量など、適材適所に努めている。なお、外部人材を活用できるよう受け入れ体制を整えていきます。



▲町民の要望を町政へ！

▶親睦を誓う



5月9日、姉妹都市である宮城県角田市の議会議員との親善交歓会が行われました。今年で27回目となる親善交歓会は石川町を会場にグラウンドゴルフで親睦を深めました。

姉妹都市 角田市 親善交歓会

未来に向かつて ・ 高校生の声

県立石川高校 3年 舘 滉平



舘 滉平さん

私は現在努力していることが二つあります。

一つは、キャリアチャレンジの取り組みです。このキャリアチャレンジは昨年からはじまり私たちが最初の実習生です。実習先の企業で不安なことは多々ありますが、自分達の進路選択や社会に貢献できる人材となるために一生懸命頑張っています。

二つ目は、生徒会活動です。生徒会長になって一年がたちました。とても大変ですが、様々な学校行事を企画、運営することができ充実感があります。人の上に立つことは苦労が多いのですが、自分を成長させてくれるものとしてとても良い経験だと思っています。

私はこの三年間という短くも中身の濃い時間を今、身体中で実感しています。県立石川高校生として、また、この石川町で学んでいる幸せを感じながら、残りの学校生活を充実



▲社会人になる前に職業体験

したものにしていきたいと考えています。

や職業観を育む体験的な学習。

※キャリアチャレンジとは：さまざまな職場での社会体験を通して、「働く大人」と接し、働くことの楽しさや厳しさ、やりがいなどを学び、望ましい勤労観

議会広報編集 特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 根本 重泰 |
| 副委員長 | 瀬谷 寿一 |
| 委員 | 近内 雅洋 |
| 委員 | 小木 芳郎 |
| 委員 | 増子美知夫 |
| 委員 | 山田 英重 |

編集後記

今回は、現メンバーでの最後の発行となります。これまで町民の視点でわかりやすい、手作りの議会だより編集を心がけ、文字ポイントの拡大、段組の変更など、改善を行いました。

去る7月11日には、栃木県那珂川町議会からの視察もあり、この2年間の成果などを説明し意見交換を行いました。町民目線からすれば、まだまだ改善の余地はありますが、この点については、次のメンバーにバトンタッチをしたいと思います。

瀬谷 寿一